



10

15

20

25

30



伊東專之著

金松堂

天野可秀園

梓

梅堂

國政画

綾重

衣紋通

春秋

初編 上の巻

筆は耕し意
漢語より糸の吾儕ハ筆の中なるに任せ。
幾春秋の重なる長物語の綾重と有喜世の
紙面へ取廣げ習ふぬ裁縫と仕懸し中途書
房の主個が引取て是と晴着の合巻し又縫
直せの急仕事も受迄夜延の欲と両個然ども
下手な仕立ゆゑ衣紋の着ハ悪うんが成丈襪襦
と出さぬやう。三袋揃ひ三枚着よ首尾よく上る
積るは彼の糊附の偽賣品もろぬ。正直正銘實録
なる袋おめし成つて御了承くさぬ

明治十二年六月初旬
伊東專三記





檀木谷の兵助

藤原の
お茶の
お茶の
お茶の

表
裏



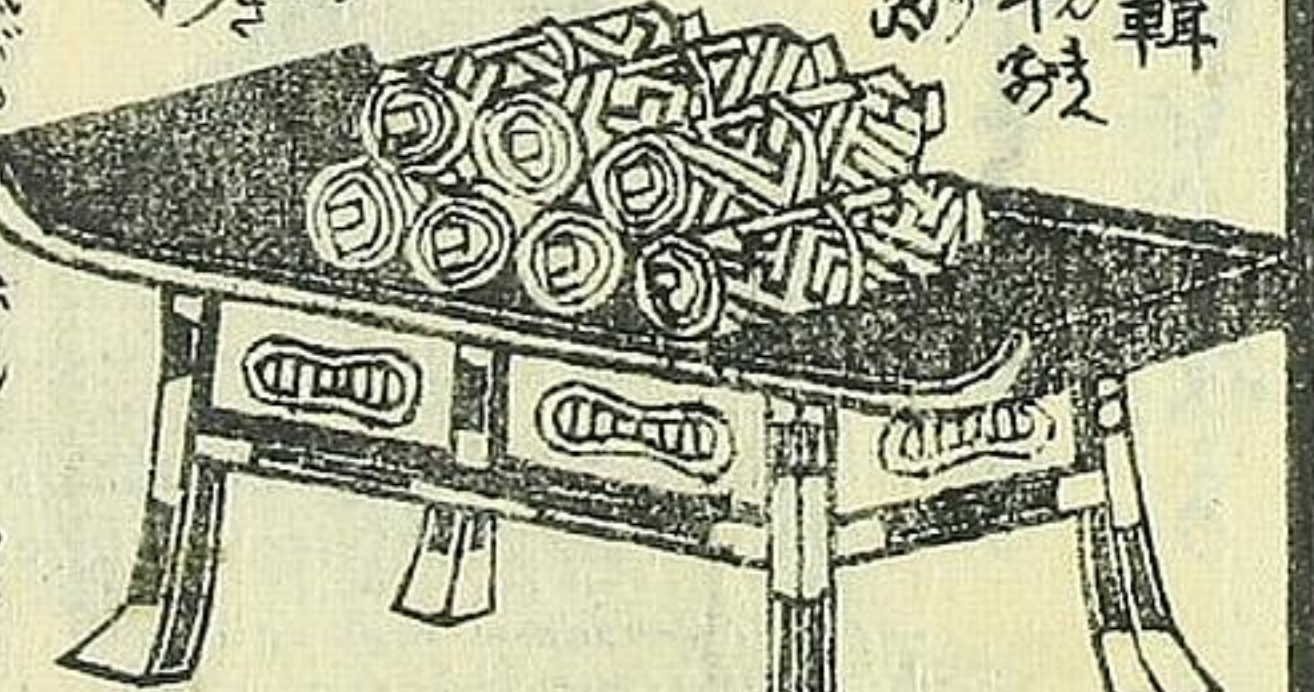
傳法院別當代回紋法師

お茶の
お茶の
お茶の

表
裏

綾重衣の西春秋 発端 伊東専三編輯
 友は後世に一條の長物傳へん今と云ふに千七百七
 束於の美場金糸山妙草寺の別當僧法院の別當
 代小田後和者といふ傳らう年表を著すに常文
 たり其より考ふの源とを再考寺院と入るの
 辺は別居せむと修す所の心と慰めと其の修法院
 五虎庵といふ者入る中ふる全書所を著すに常文
 料幸之帝といふ珠の介ふる美男の女回故の宗
 ？？？幸之帝の史を著すに常文
 本多と通名を著すに常文
 世よのふ山脚を著すに常文
 且て人の全書通一郎宅の長と傳り
 長女おちる式を著すに常文
 有る方相の側を著すに常文

▲二勇幸之帝が回故の庵と
 冠るより又一層の被らと
 増しむるも幸之
 己は傳法院へ来りて



日波の親者
 の収納
 と自中
 廣さんと
 傳は謀斗ふ
 陰表を著
 丹と
 其盛
 小
 つた



本田の徳子
 幸三郎

徳子

つぎに本座へ入るに回りの
 修院へ入るに回りの
 原をよぼすに回りの
 三つと連るに回りの
 宅へ入るに回りの
 船へ入るに回りの
 酒肴と是れ清酒なる
 成るに回りの
 中へ入るに回りの
 伯母が片へ入るに回りの
 眼と回りの
 考へて入るに回りの
 又と入るに回りの

まじどんの情態と本座へ
 早よの情態と本座へ
 如く評議は座よ
 得座を打所なる
 間へ掛るに
 炭抱とま
 やりやと
 本座へ
 如き目まひ
 まよの情態

本座へ
 物言
 困る
 未通女の初志
 一五ひふん指



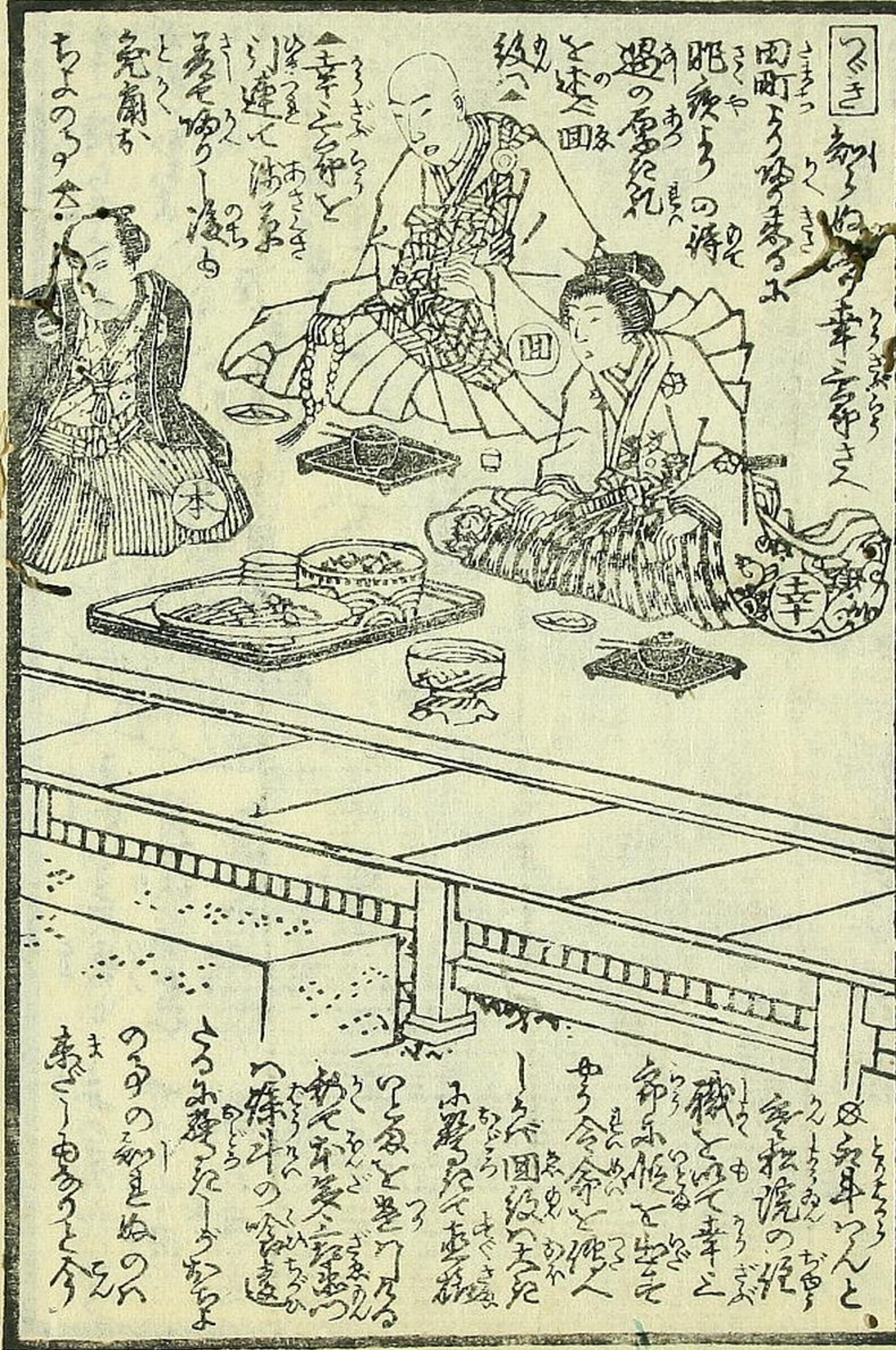
護法
 心勿地
 焼焼と
 砕るが
 かくかく
 かく物
 犬退き

水知るに
 目と回りの
 毎に
 毎に
 毎に

水知るに
 目と回りの
 毎に
 毎に
 毎に

水知るに
 目と回りの
 毎に
 毎に
 毎に





つぎ 刻りぬき 幸を幸と
 田町よりゆきまふ
 暇より侍
 過の原たれ
 と述之回
 幸を知り
 引連て湯系
 美をゆりし後
 免崩が
 ちよのり太

おのれは年つんと
 松院の住
 職として幸と
 命承候と出せ
 中令命と候人
 一各回致し玉見
 小島にやま
 のとをきりける
 かくて幸を
 一俵斗の吟遠
 たるふれたうちよ
 のりの初まぬの
 幸よりありと今



大意なる
 おく白金入りの
 湯をゆりし後
 此事早く由ふ山ある象
 山寛永寺の園を一のり
 上野二十太の院の法
 のり修法院の回致
 成り満し平者のま
 妻を中の中
 宮柳の原

後にかちよを若丸
 姿ははまを屋後と
 あて修法院へ入
 たるふれたうちよ
 のりの初まぬの
 幸よりありと今



あつたのまゝに解ぬの
 ぐさし積積順の進とゆれ
 天神と為り佛とす一為徳漢
 徳と様

あつたのまゝに解ぬの
 ぐさし積積順の進とゆれ
 天神と為り佛とす一為徳漢
 徳と様

あつたのまゝに解ぬの
 ぐさし積積順の進とゆれ
 天神と為り佛とす一為徳漢
 徳と様



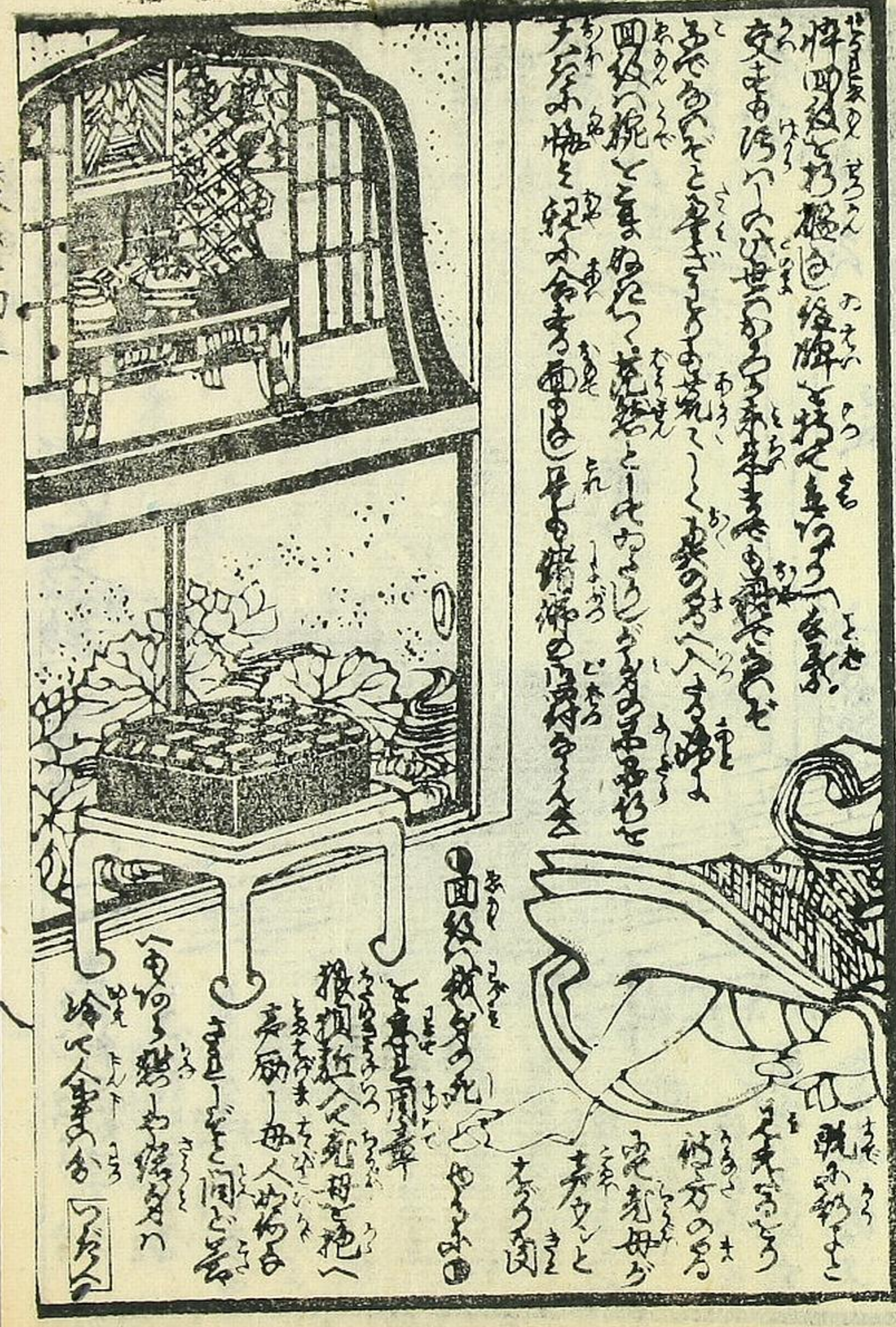
あつたのまゝに解ぬの
 ぐさし積積順の進とゆれ
 天神と為り佛とす一為徳漢
 徳と様

あつたのまゝに解ぬの
 ぐさし積積順の進とゆれ
 天神と為り佛とす一為徳漢
 徳と様

あつたのまゝに解ぬの
 ぐさし積積順の進とゆれ
 天神と為り佛とす一為徳漢
 徳と様



るまき 父の心もなれば... 女は... 男は... 源氏物語の一場面を描いた挿絵。女性は立派な装束を身にまとい、手には巻物を持っています。男性は膝をついて、彼女の前で何かを語っている様子です。周囲には様々な注釈や説明文が記されています。



源氏物語の一場面を描いた挿絵。背景には格子窓があり、その外には庭園の様子が描かれています。前景には低い机があり、その上には箱が置かれています。人物の姿は遠くから透りかかっています。周囲には様々な注釈や説明文が記されています。

つぎとま

甘茶申ゆゑの病来

病も治すも病も治すも

早途急降と述

へう急降と

早急とも

早急

早急

早急

早急

早急

早急



天神の別名と成

言ひ此一年の事

ありき情もかきと

な思つて成月おちよ

う儀もよるも思

みも思つるも思

たな思つるも思

と思つるも思

思つるも思

思つるも思

思つるも思



四段の煙とやうな

あひま法の

てく師を

送りて

せまは

入るの家

とま

りつ

母の菩提の

おん

おん

してありと後

思つるも思

思つるも思

思つるも思

思つるも思

思つるも思

思つるも思

思つるも思

思つるも思

思つるも思

思つるも思

思つるも思

つぎ 何う四段の流と市
 かく聖治地之年の四月
 玉の中より女のみと産産
 せーるの字もふとあつた
 ありおて又おちの弟幸之弟
 家へ入りし夫人小成り
 御座りし縁の村木同屋並
 川な邊方ふよと不出波
 本多の目的の遊吟遊
 融通も利きあり幸す御代
 傾きし如く幸す御代
 御代と括弧し之の
 全用と括弧せし



沈め 石山の
 金屋を
 優心
 くらもま
 くるを
 一うら
 うちよ
 ちよあ
 せよあ
 世もんの
 世とい
 あらん
 初編上の巻をま

官 牛 肉 丸
 許 名 法
 官 天 泰 丸
 許 名 法
 包代 製 菓 業 者

の巻は...
 たんと丸...
 包代製菓業

文 錦 繪 門 屋
 出板 橋 福 明 治 十 五 年 五 月 廿 日
 金 松 堂 出板

編 輯 假 名 用 魯 文
 出板 辻 岡 之 助





綾重衣
紋廻春
秋初編

全
壽梓

尾田長



10

15

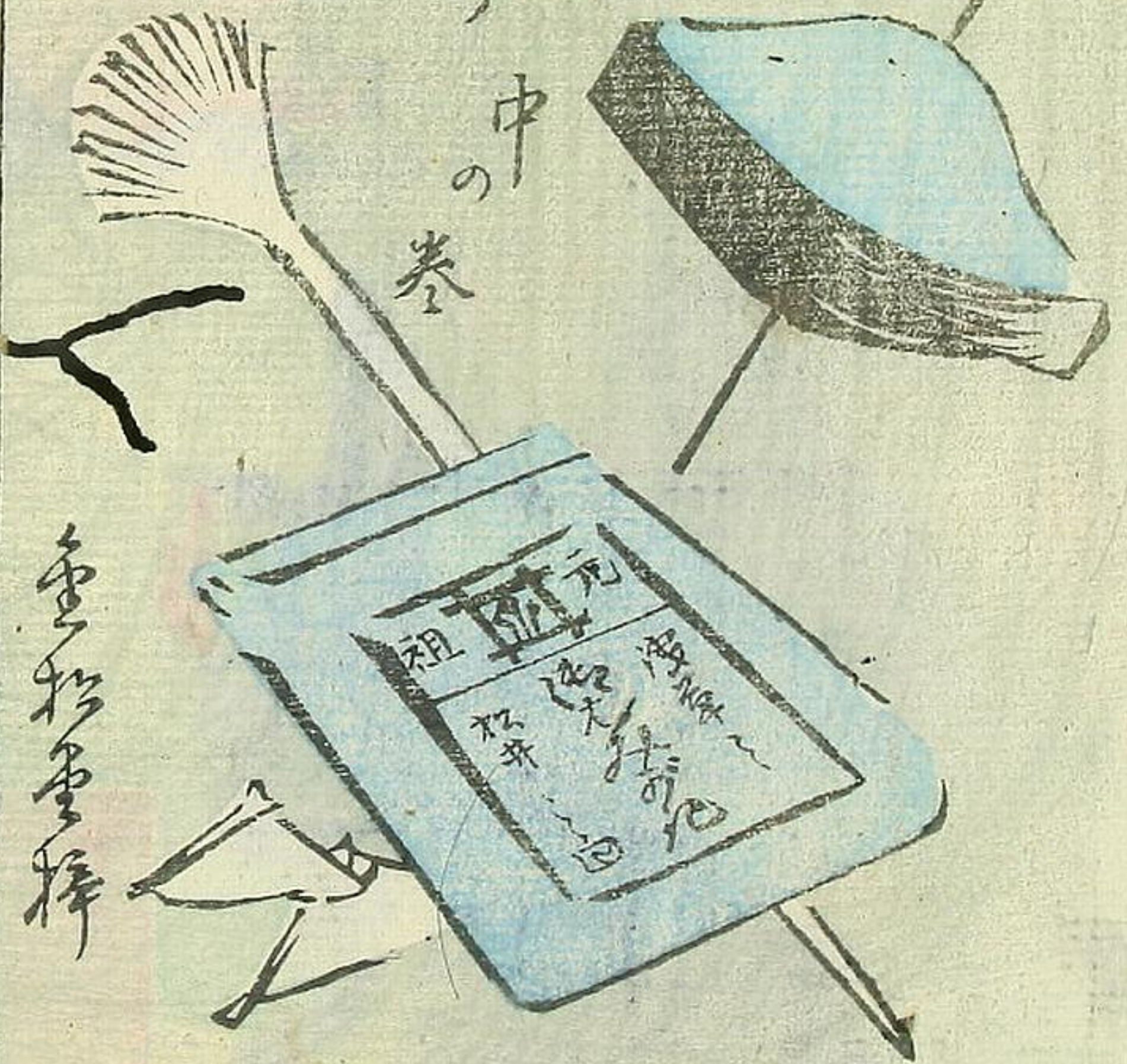
20

25

30

A487
2

あやぐさね
凌冬
えしのの
衣
美秋
初海
伊東傳之著
天路可美院
松平國政画



冬物重輝

△流りもよみおはふらふとあはれ
初編中の巻
伊東傳之著
天路可美院
松平國政画

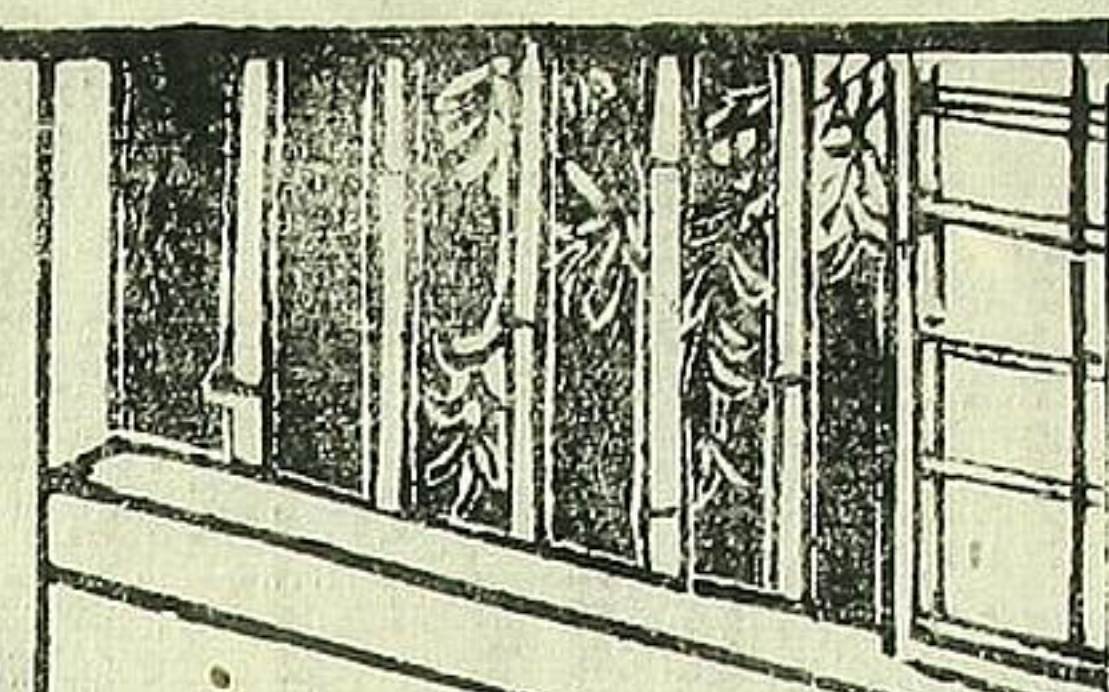
春のあけとすもよみの
あけのふゆとすもよみの
あけのふゆとすもよみの

あけのふゆとすもよみの
あけのふゆとすもよみの
あけのふゆとすもよみの

あけのふゆとすもよみの
あけのふゆとすもよみの
あけのふゆとすもよみの

あけのふゆとすもよみの
あけのふゆとすもよみの
あけのふゆとすもよみの





つぎは「おたけめ」
絹と軟トヤシガキ
糸のたまはう海
のと糸の先
おぼのまき
隙の坊と逢

▲横のり金と隙の坊
おぼのまき
糸のたまはう海
のと糸の先
おぼのまき
隙の坊と逢

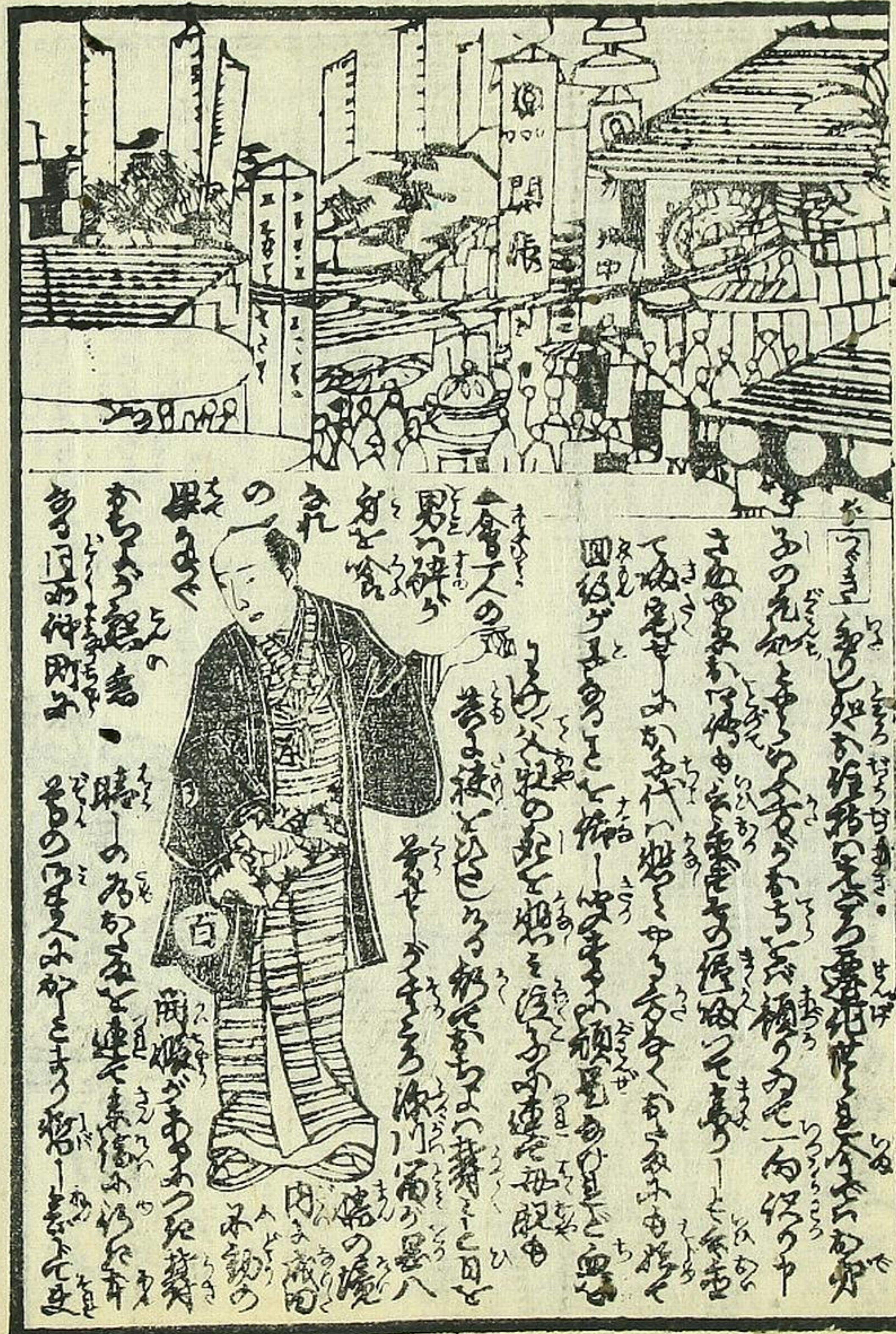
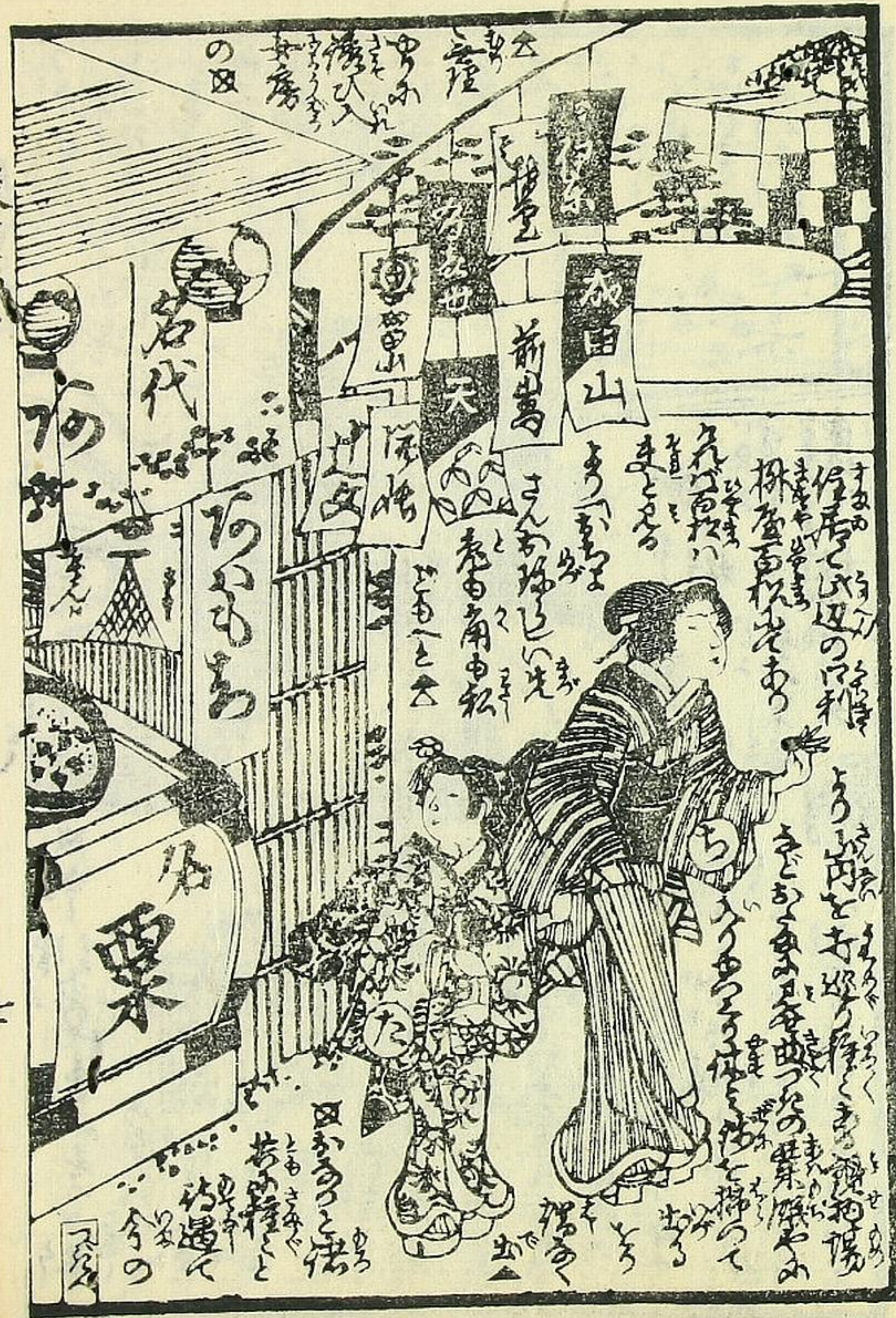


大「おたけめ」
おぼのまき
糸のたまはう海
のと糸の先
おぼのまき
隙の坊と逢

おぼのまき
糸のたまはう海
のと糸の先
おぼのまき
隙の坊と逢



おぼのまき
糸のたまはう海
のと糸の先
おぼのまき
隙の坊と逢



栗
 前山
 天
 山

栗

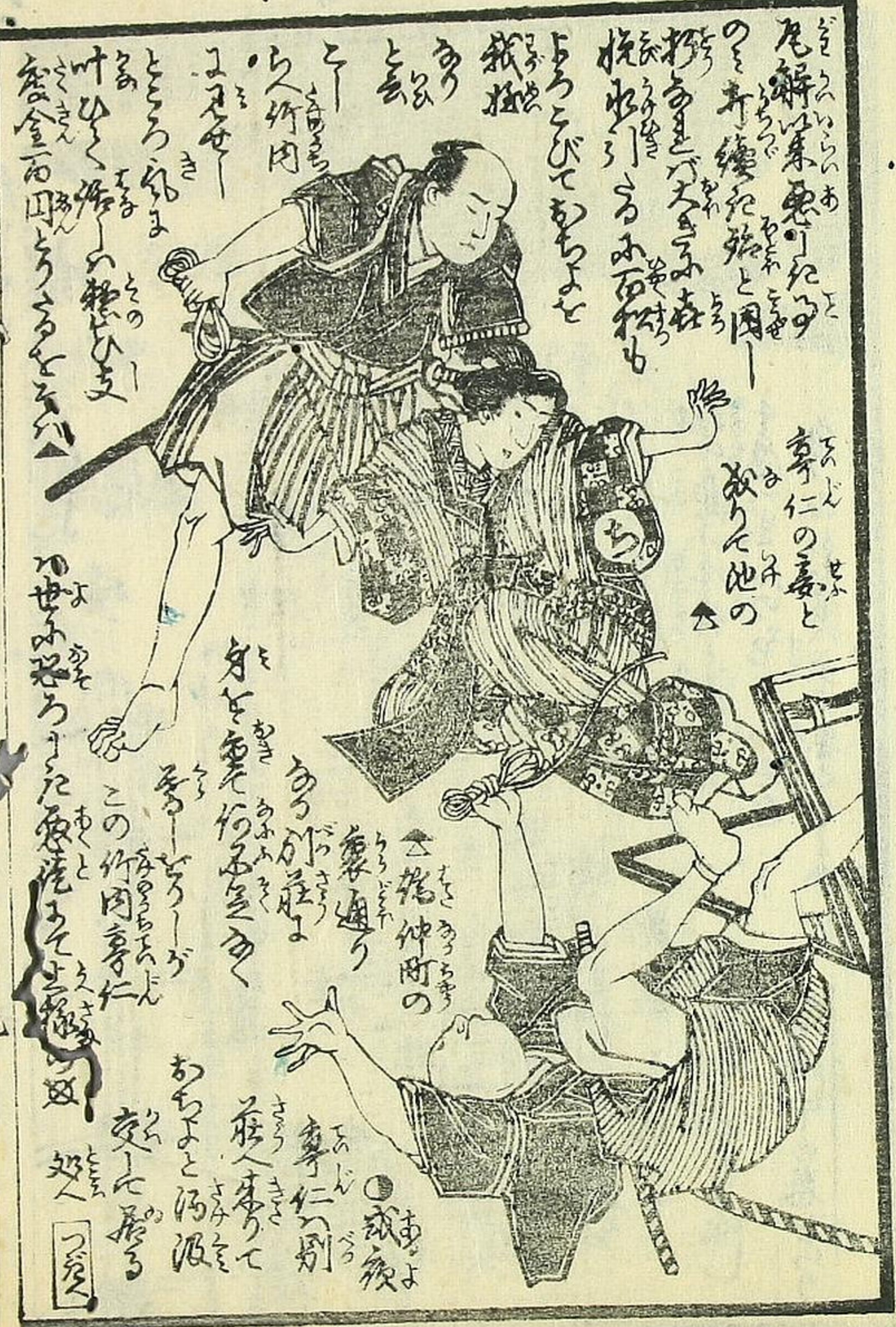
綾車の中



つぎ切らさうより勢
結羅のおおむらぎ
更食子ゆ胞き
榮耀榮華をま
のそあまを有くけけ
本妻み成らるる
おあさんさく知
まへ善い急げとせ
ゆめうら見よう
向へゆき
通る様うある
かゆいゆき
と又ゆるまは
るみかちよいは

△百松が
△西将と
おあさんさく知
まへ善い急げとせ
ゆめうら見よう
向へゆき
通る様うある
かゆいゆき
と又ゆるまは
るみかちよいは

日宝
おあさんさく知
まへ善い急げとせ
ゆめうら見よう
向へゆき
通る様うある
かゆいゆき
と又ゆるまは
るみかちよいは



尾解の糸
の糸
おあさんさく知
まへ善い急げとせ
ゆめうら見よう
向へゆき
通る様うある
かゆいゆき
と又ゆるまは
るみかちよいは

△松仲舟の
△西将と
おあさんさく知
まへ善い急げとせ
ゆめうら見よう
向へゆき
通る様うある
かゆいゆき
と又ゆるまは
るみかちよいは

日宝
おあさんさく知
まへ善い急げとせ
ゆめうら見よう
向へゆき
通る様うある
かゆいゆき
と又ゆるまは
るみかちよいは

福嶋 編輯
銅版開化七編 全
開化女用文章 全

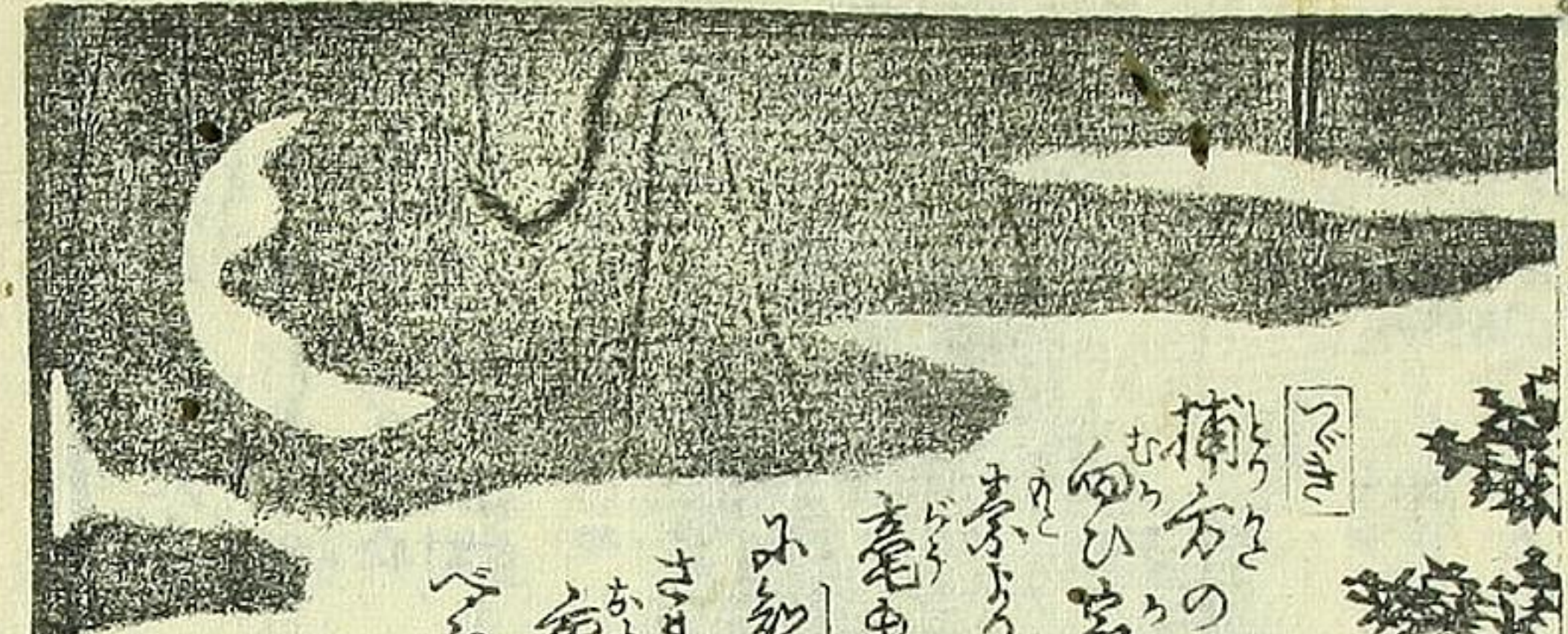
近世紅 開
夜嵐阿鬼奴花枕夢 全
編

義烈回天白首 全
金花七變化 全
編

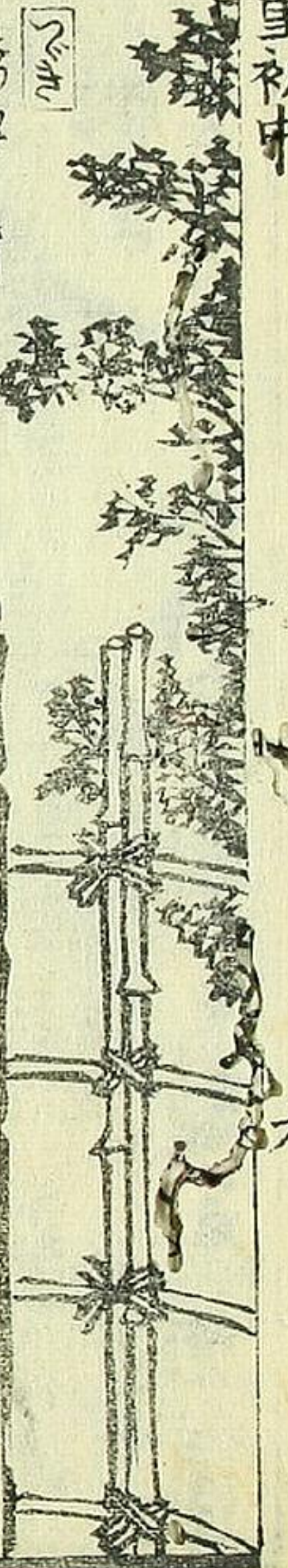
伊呂波字引 全
鶯衣女鳴神 全
編

笑 錦繪問屋
金松堂
出版

明治五年五月
出版



絃重視中



捕方の...
向ひ家門中を捕りて成らざるが
素よりおちのつ女下男等の
毫も憂ふを知らぬ工が明ら
み知れぬも及量等いさあや
さし一がさるにいと憚りのこ
重き罪科ふもあせらる
ふらぬをせと寛典のほお
とほそあふを徳と成らる
を後へさるのちのあはれ
ありぬあちよふ少い安んせ

初編中の巻どう

010190511699





10

15

20

25

30

4401
3

凌雲

衣子の

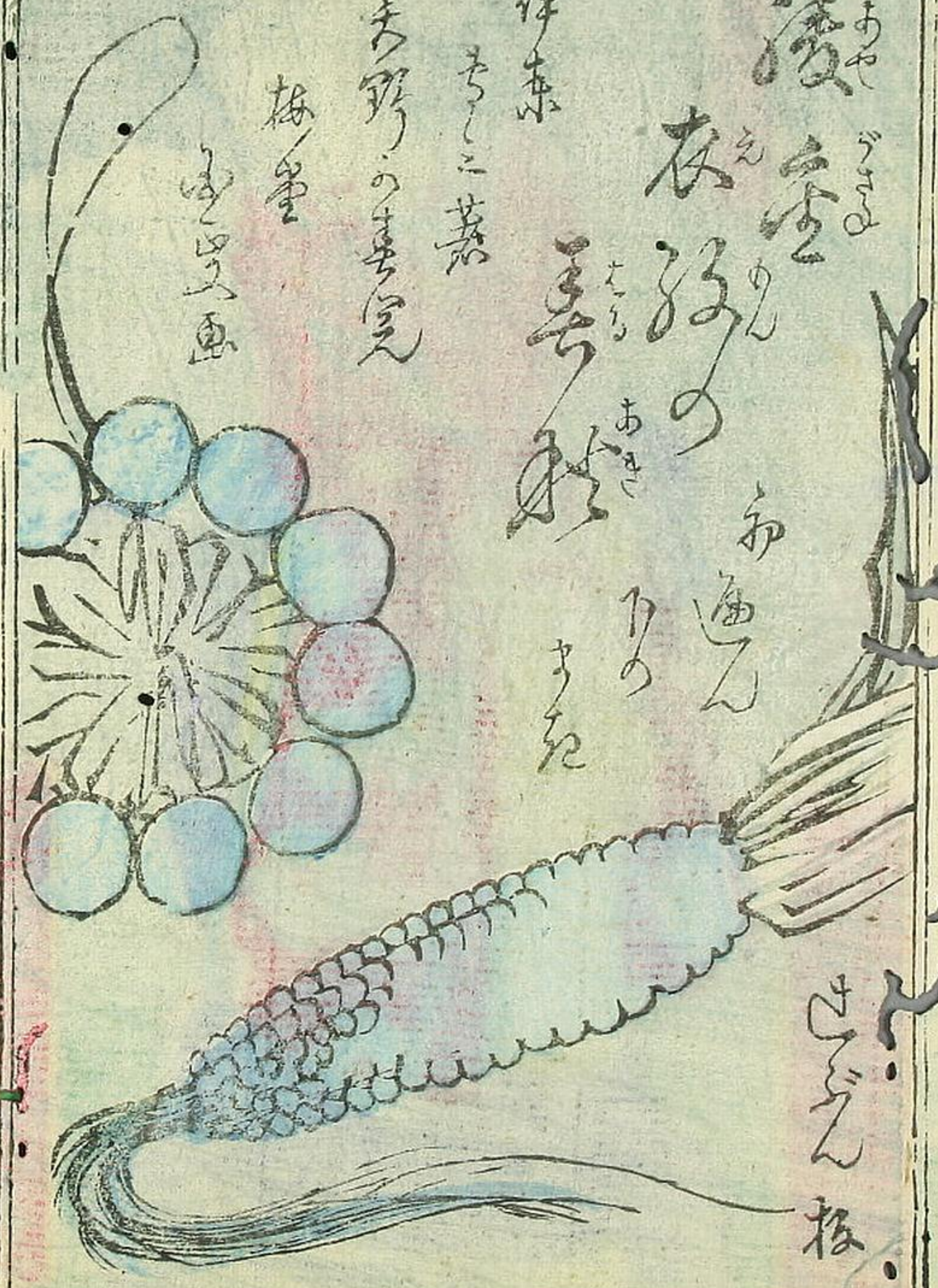
伊赤

まろこ蒸

まろりのまろい

梅香

まろい魚



しんぼん板

初編下の巻

まろい又まろい

二男赤と赤い地の

欠為りてより大板の

むろの心は指さりの

店通の香とり

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

掛り

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

まろい

清正公大儀神

○清正公大儀神

清正公大儀神

清正公大儀神

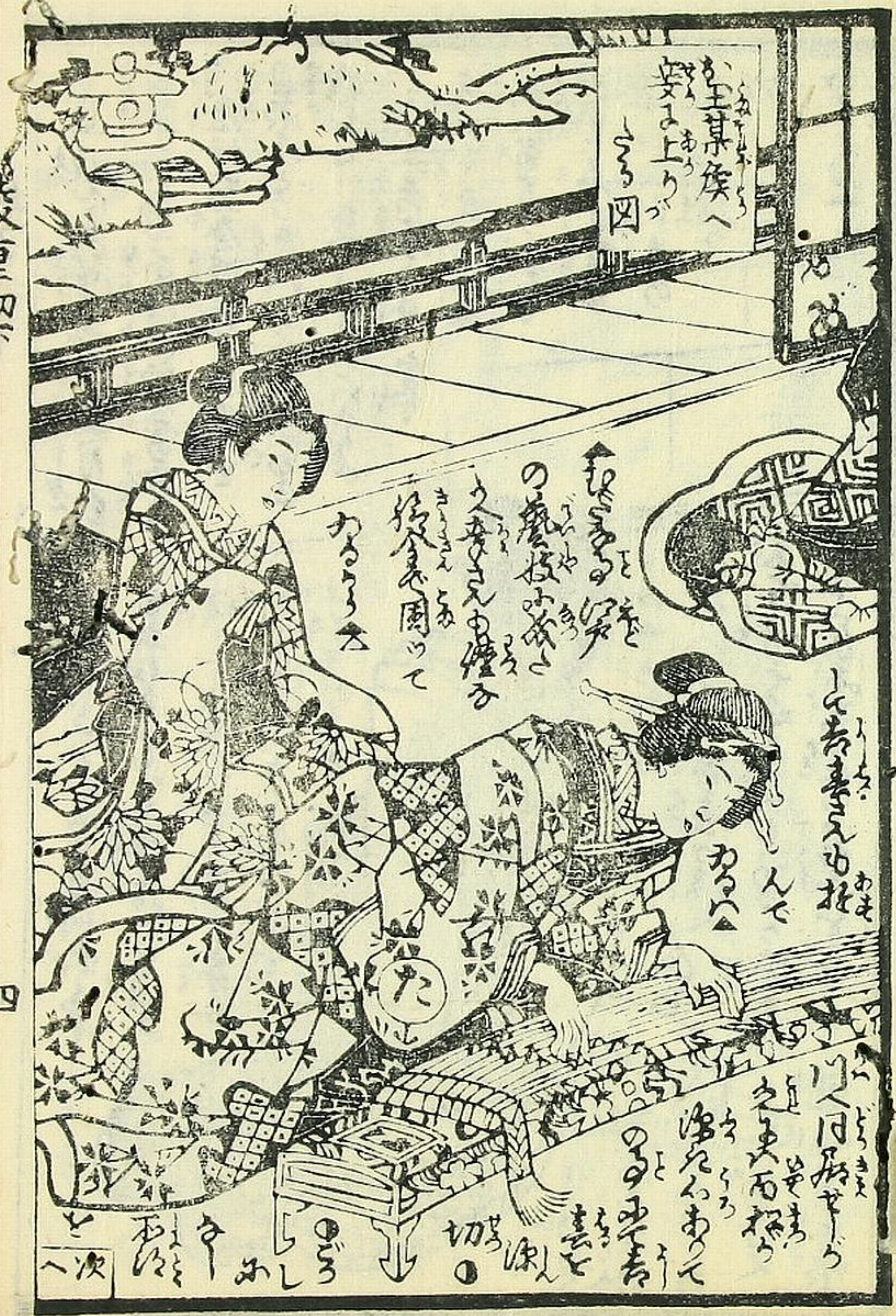
48-2193

小田町より
 ちのの家へ
 後いふと
 りが光様と
 悔やふ
 悔いと息ひ
 一者ふれ
 とも死の
 ととふら
 と改す
 不夜の
 者と夢

進人が御
 ちのの方と
 おあき
 坊主
 せ
 金市
 田と
 長
 が身の
 代金
 百田と儀
 かんてい
 掛合ふは

も解け
 宿の月
 宿の月
 宿の月

ちのの方と
 おあき
 坊主
 せ
 金市
 田と
 長
 が身の
 代金
 百田と儀
 かんてい
 掛合ふは



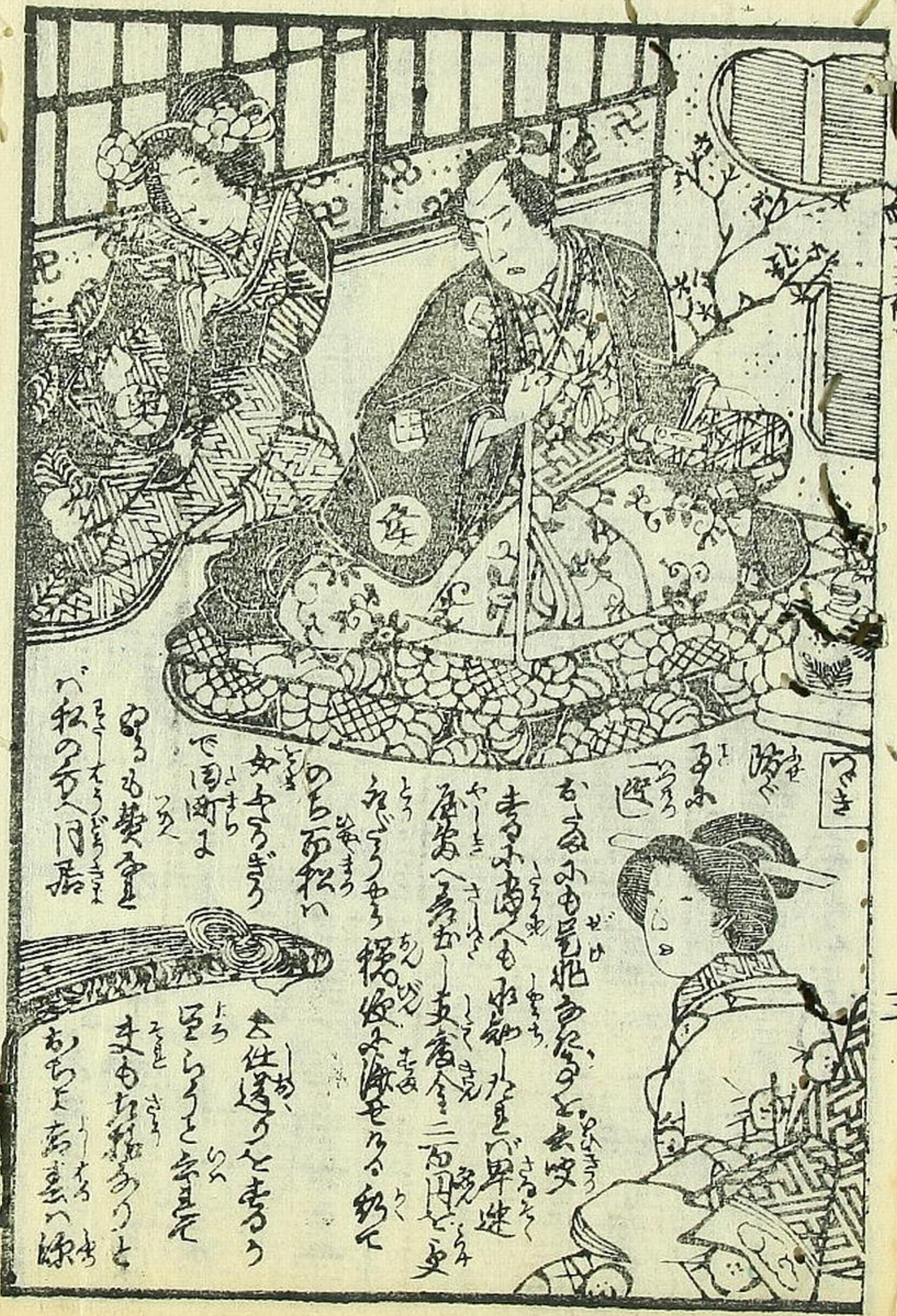
お茶屋へ
お上り
四

お茶屋へ
お上り
四

お茶屋へ
お上り
四

お茶屋へ
お上り
四

お茶屋へ
お上り
四



お茶屋へ
お上り
四

お茶屋へ
お上り
四

お茶屋へ
お上り
四

お茶屋へ
お上り
四

お茶屋へ
お上り
四



巻文 三ノ目



男のこゝろ
かろふおまのいけぞと
お内い金個ケ
おまのこゝろ

おまのこゝろ
おまのこゝろ
おまのこゝろ

つぎは
おまのこゝろ
おまのこゝろ
おまのこゝろ
おまのこゝろ



おまのこゝろ
おまのこゝろ
おまのこゝろ
おまのこゝろ

おまのこゝろ
おまのこゝろ
おまのこゝろ
おまのこゝろ





初とて嘆き
 意のなほさ
 附て来りし
 今も猶も
 来りしやある

秋の夜
 秋の夜

存場の仲間も
 謝りて来りし
 室のなか
 影や強波に
 室のなか
 影や強波に
 室のなか
 影や強波に



一羽の身
 報性
 一羽の身
 報性

長

幸

一羽の身
 報性
 一羽の身
 報性

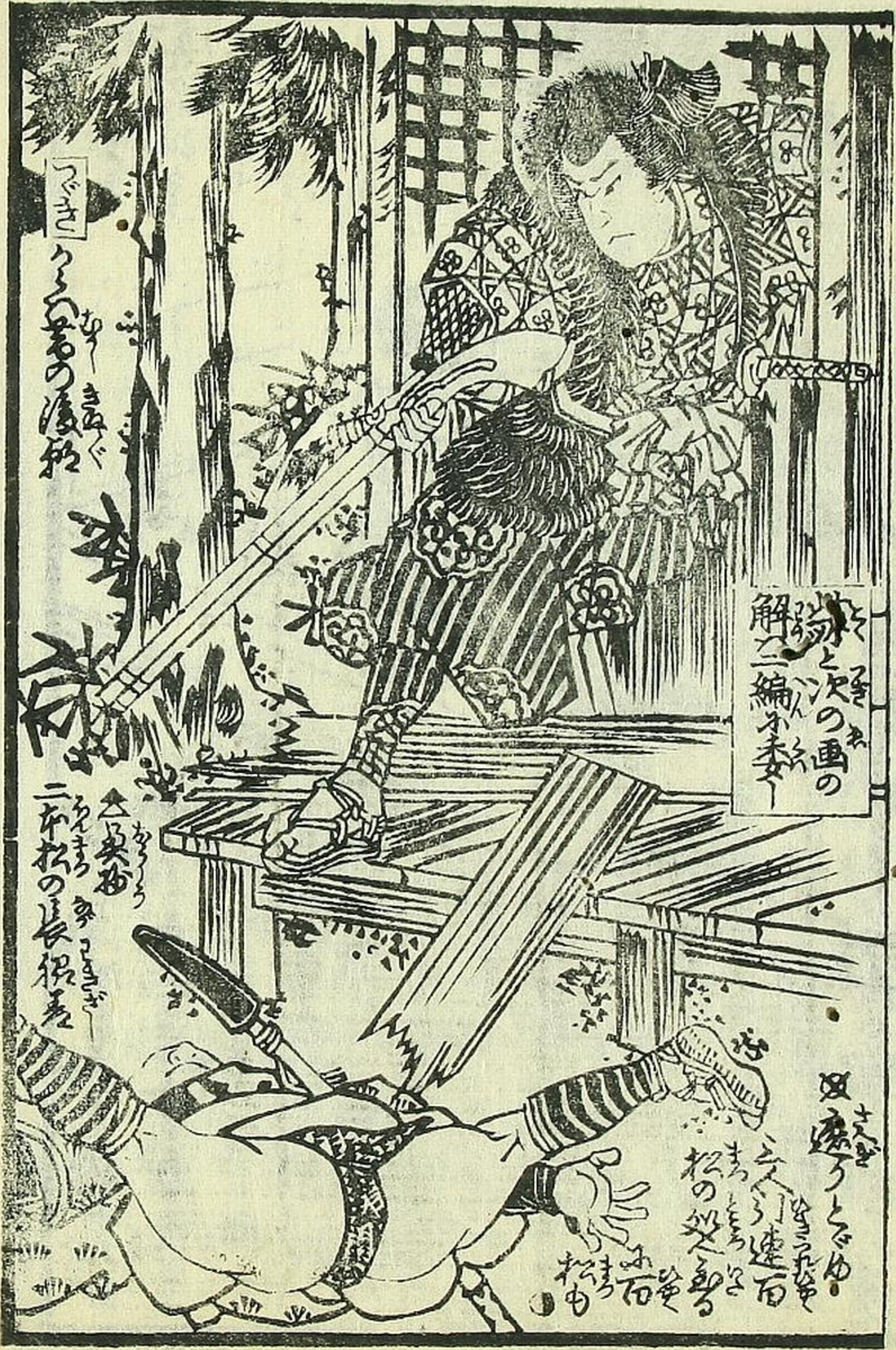


此の如くも思ふ人の情懐
此の如くも思ふ人の情懐
此の如くも思ふ人の情懐

白狐の如くも思ふ人の情懐
白狐の如くも思ふ人の情懐

長谷川とて思ふ人の情懐
長谷川とて思ふ人の情懐

此の如くも思ふ人の情懐
此の如くも思ふ人の情懐



此の如くも思ふ人の情懐
此の如くも思ふ人の情懐

此の如くも思ふ人の情懐
此の如くも思ふ人の情懐

長谷川とて思ふ人の情懐
長谷川とて思ふ人の情懐

此の如くも思ふ人の情懐
此の如くも思ふ人の情懐

伊東專三著



梅堂國政畫

幸之節も遠くを
 後悔の心も形もなき
 涙もあふれぬ
 男の子も女も
 固着しあふる由候

初編の巻より
 後編の巻より
 後編の巻より
 後編の巻より

假名通書大書
 高橋阿傳夜叉譚

八尾編

伊東專三編輯
 綾重夜叉廻春秋

八尾編

川上鼠邊編輯
 國定忠次名高鳴

九尾編

波邊文京編輯
 名廣澤邊萍

九尾編

伊東專三編輯
 水錦隅田曙

三尾編

川上鼠邊編輯
 腕競心三俣

三尾編

假名通書文編輯
 格蘭氏傳倭文賞

三尾編

假名通書文編輯
 戀相場花王夜嵐

三尾編

地本問屋
 錦繪

金松堂

出版人 辻岡文助

